

日本劇作家フェスティバルげきじゃ！ 若手交流WG 企画

ツナゲ！！戯曲リレー 執筆戯曲

一巡目・三巡目 作…石田優希子、片山順貴

二巡目・四巡目 作…竹田モモコ、古川健

執筆日…二〇二五年十一月一日

お題①…役場

お題②…ばら

タイトル

「トゲナシンドラマンチヨ・ジユクジユク」

平日の役場。静寂。空いている。

正面にカウンター。椅子が並んでいる。

佐原、番号札をとり椅子に座る。

呼出音

お待たせしました。番号札、5億9383万7462番でお待ちの方。

★4番カウンターまでお越しく下さい。

佐原 ★よかった、意外と早くて。

米田 こっちです！こっち！

佐原 はい、はいはいはいはい。はい？

米田 ようこそ！（両手を広げる）桶井町役場へ！楽しんでらっしゃいますか？

佐原 はい？

米田 楽しんで、らっしゃいますか？？

佐原 楽しめては、ないです、

米田 申し訳ありません。

佐原 いやいや。え、あ、え？こ、こちらこそ、

米田 これね、通し番号なんですよ。

佐原 はい？

米田 その番号札。この町が始まってから。全員を忘れないぞ、全員と向き合うぞ、
って思いをこめて！どうです？？

佐原 …素敵ですね。

米田　でしょ！？そうでしょ。楽しんでらっしゃいますか？

佐原　はい。

米田　で、今日は？

佐原　これ、

佐原、離婚届を出す。

米田　ええ！？そんなあ！

佐原　はは。すいません、

米田　まだたった一年じゃないですか！

佐原　まああの、生活リズムとか。色々、合わなくて

米田　旦那さんは納得してるんですか！！

佐原　いやあ。

米田、頬を自分で叩き気合をいれなおす。

米田　それ、どこで手に入れたんですか…！

佐原　え、あ、普通にネットで。

米田　どうりで、うちには置いてませんからね。

佐原　え？離婚届ないんですか？？

佐原、周りを見渡す。

米田 ええ、一枚たりとも置いてませんよ。

佐原 置いた方が、いいんじゃないですか、

米田 だからこれは閨離婚届。なので受け取れません。

佐原 は？

米田 お帰りください。

米田、手元のボタンを押す。

呼出 ★お待たせしました。番号札、5億9383万7463番でお待ちの方。4番

カウンターまでお越してください。

佐原 ★いや困ります。今日離婚しないとダメなんです

米田 ないものは、受け取れませんから！

佐原 そんな、え？そんなこと可能なんですか？

米田 不可能を可能にする。それが桶井町役場

米田がカウンターのの上に立ち、勢いよくタイトルコール。

小粋なミュージック&ダンス。

呼出 お待たせしました。番号札、5億9383万7463番でお待ちの方。4番力
ウンターまでお越しく下さい。

米田、小粋なダンスを止めない。音楽は止まる。呼出、登場。ポケットのいっぱい
ついた服を着ている。ポケットはメモ紙で膨れている。

呼出 お待たせしました。番号札、5億9383万7463番でお待ちの方。4番力
ウンターまでお越しく下さい。

佐原 え？え？この人？

米田、やっとダンスをやめる。息を切らしながら口を開く。

米田 どうです？諦めてくれましたか？

佐原 は？

米田 閨離婚。

佐原 だからあ・・・

そこに一人の男が赤いぐしゃぐしゃした大きな何かを抱えて現れる。

呼出 お客様、番号札はお持ちでしょ・・・

佐原 うわあ。来た！

米田 ようこそ！（両手を広げる）桶井町役場へ！楽しんでらっしゃいますか？

男 （米田と呼出は無視して）佐和子！

佐原 あんた何しに来たのよ？

夫 この花に名前をつけてくれ！！！！

佐原 はあ？

夫 この花、見てくれよ！この世界でまだ誰も見たことない花だよ。

佐原 え。何それ、気持ち悪。え、え、えええ？花びら多すぎない？え、色がー、

え？血？内臓が、こうー……え、トゲ？トゲついてない？きも。え、やめて？
こっちむけないで？どうしたのそれ？

夫 学生のころから研究してきた新種の花がやっと咲いたんだよ。というか、結婚
一周年に合わせて咲かせたんだよ。

佐原 匂いが……香水？

夫 いい香りだろ？

佐原 柔軟剤みたい……

夫 （ショックを受ける）

米田 柔軟剤みたい。もしくは匂い付きで柄つきのトイレットペーパーみたい。

夫 なにそれ。君関係なくない？

米田 ようこそ！（両手を広げる）桶井町役場へ！楽しんでらっしゃいますか？

呼出 お客様、番号札はお持ちで……

夫 ちょっと黙って！？

米田 さささ、どうぞお二人とも座ってください。

夫 え？何、急に？

米田 ままままままま、さささささ、どうぞどうぞどうぞ、

米田、やや強引に佐原夫妻を座らせる。

米田 問題を整理しましょう。

二人 ？

米田 あなたはこの香りのキツいみょうちくりんなお花に名前が欲しい。

夫 みょうちくりんって・・・

米田 そうですよ？

夫 まあ、そうです。

米田 そんなことしてる場合でしょうかねえ。聞きましたよ。奥さん、離婚婚まで考えてるじゃないですか。こんなことにかまけてるからすれ違いが起きるんじゃないですか？

夫 はあ・・・

米田 桶井町役場はすべての訪問者を大事にする町役場です。問題を順番に解決していきましょう。

二人 (顔を見合わせる)

米田 まずは簡単な方！お花の名前！（佐原に手を伸ばして）さあ、あなたが名付ければいい。

佐原 (嫌そうに) 私？

米田 さ、どうぞ！お願いします。

佐原 ええ・・・（嫌々ながら考える） じゃあー…：ロース？

夫 ロース？肉じゃん。

佐原 肉っぽいじゃん。

夫 ええええー・・・ええええー？他になにかない？

佐原 じゃあ（しばらく考えて）・・・ばら？

夫 バラ？肉じゃん。

佐原 肉っぽいじゃん。

三 巡 目

夫 仕方がないだろ、この町の空気に含まれる成分がそうさせるんだ。

米田 空気が、肉っぽい…：…？

呼出 （花を指さし） 29番！

夫 じつとりとした、湿潤な大気なんだ。

米田 水っぽい…：…？

呼出 えっと…：…

米田 「みずみずしい」にしたらさあ、3・3・4で表せない？

呼出 334番！

米田 よっしゃ！

佐原 何を言ってるんですか。

米田 ほんとにね。

夫　こんなみずみずしい、

呼出　334番！

夫　334番な町で、僕は一年も我慢させられてきたわけだよ。さあ、約束の1年が経った。僕と一緒に砂漠の国「サバランティア」へ飛び立とうじゃないか。

佐原　無理すぎる。

米田　それは桶井町のなかですか？

夫　そんなわけではないでしょう。

米田　では桶井町からどのくらいの距離なのですか？

夫　おおまかに2万キロくらい……

米田　に、にににに……

呼出　2万キロ番！？

佐原　だから離婚したいんです！

夫　まだそんなこと言って。もう少し嗅いでごらん、この花の香りを……

米田　離婚をしないと、この町から出ていかなければならない。そういうことです

か？

佐原　そういうこと！

米田　この、この桶井町から？！

佐原　だからそうなんだって！

米田、離婚届を佐原からぶんどり、カウンターに駆け上がる。

米田 確かに受け取りました！

夫 ちょっと！

佐原 行って！ そのままハンコ押して！

米田 おっけーい！

夫 おっけーいじゃないよ！

夫と米田、役場のなかを走り回る。

佐原、夫から花をぶんどり、夫を叩く。花びらが舞う。

夫 ちくちくする！ ちくちくする！ この町の土壌が硬質だから！

呼出 (早口で) 1919！ 1919！

夫と呼出が衝突する。呼出のメモ紙と、花びらが散らばる。

呼出 ばーん！！

静寂。

夫、花びらを拾う。

夫 僕の1年が、ばらばらだ。

夫、花びらを拾い続ける。

佐原、夫を手伝って花びらを拾い始める。

呼出 なんか、ほうきとか持ってきてきましようか？

夫 あ、でも……なんか、嫌かなって。

呼出 あっ、すいません。すいません……

呼出、番号札を拾い始める。

米田、ハンコを押した離婚届を持ってくる。

米田 押しましたよ！

離婚届を佐原に渡す。

米田 これを、あちらの

呼出 11番

米田 カウンターへ持っていてください。はい、番号札。

米田と呼出、走って11番カウンターへ向かう。

佐原、離婚届をじっと見つめる。

呼出 お待たせしました。番号札、5億9383万7464番でお待ちの方。11番
カウンターまでお越しください。

佐原 ……。

呼出 お待たせしました。番号札……

米田 こっちこっち！

呼出、米田を制す。

呼出 全員と向き合う。それが、桶井町役場、でしょ。

米田 でも……

佐原、離婚届を米田に渡す。そのまま走って出口に向かう。

夫の前で止まる。

夫 この花は愛を伝えるには向かないみたいだ。

佐原、出ていく。

夫・・・佐和子。

呼出 佐和子、さわ・・・385番。

夫 うるさい！

米田（呼出しに）これで一人、町民の流出を防げましたね。

夫 あんた、そんな理由で離婚届を受理したのか？

米田 はい。何か問題ありますか？

夫、へたり込む。二人、その様子を遠巻きに見ている。

夫 この花・・・ばら。きれいじゃないか？いい香りじゃないか？

米田 元気出してください！

夫 急に励ますなあ・・・

米田 この町役場は訪問者に寄り添い続ける町役場です。

夫（大きなため息）

米田 しかし、物は考えようです。

夫 は？

米田 奥様はね、あなたの美しいが美しいではないんです。

米田、散らばった花束のそばに近付き、花びらを一枚拾う。

米田 私は美しい色だと思います。いい香りだと思います。

夫 ……ありがとう。

米田 どう思います？

呼出 変わった形の花だと思えます番。

米田 夫婦は同じ価値観が望ましい。そうじゃないですか？

夫 でも僕は彼女を愛しています。

米田 確かに夫婦に愛は必要です。でも価値観の一致はもっと必要不可欠です。あなたはこの花を。ばら？を美しいと感じる相手が望ましい。

夫、しばらくうなだれているが、やがて切り替えたように立ち上がる。

夫 分かりました。僕は僕のばらを愛でてくれる相手を探すことにします。……
ここから2万キロ離れたサバランティアで。

米田 え？

呼出 2万キロ番。

夫 ということで転出届をお願いします。

米田 ありませんよ。

夫 はあ？

米田 転出届、離婚届、死亡届、そういった人口の減少に繋がる届出用紙は一枚たりとも置いてませんよ。

佐原、手に何やらぬめぬめしてピカピカ光りぷるぷるして悪臭を放つトゲナシン

ドラマンチヨ・ジुकジुकを握りしめ、走り込んでくる。

佐原 私はねえ、このトゲナシンドラマンチヨ・ジुकジुकが大好きなの。香りのよくて肌触りも最高じゃない。

夫 お前、トゲナシンドラマンチヨ・ジुकジुकはやめるって約束したじゃないか！

佐原 ごめんなさい。でも無理なの！どうしても離れられない！・・・トゲナシンドラマンチヨ・ジुकジुकを好きな私ごと愛してくれる？

夫 佐和子・・・

佐原 私もば、ばら？を好きなあなたと一緒にいるから。

佐和子の手のなかで次々と色をかえるトゲナシンドラマンチヨ・ジुकジुक

トゲナシンドラマンチヨ・ジुकジुक ぴいいゝ・・・

米田 かわいいじゃないですか。

呼出 番。

夫 (無視)分かったよ。トゲナシンドラマンチヨ・ジुकジुकのことが好きな佐和子をとゲナシンドラマンチヨ・ジुकジुकごと大事にさせてくれ。

佐原 ありがとう。私もば、ばら？を好きなあなたが好き。

佐原、トゲナシンドラマンチヨ・ジुकジुकを夫に渡そうとする。

佐原　ね、触ってみて。かわいいよ。

夫　ひー（反射的に悲鳴を上げる）

やや白けた沈黙。夫、取り繕うように花束の残りを拾い、佐原に渡そうとする。

佐原　きも！（反射的によける）

夫　そういうこったよ。…帰るか。

佐原　帰るか。

二人、役場の玄関にむかう。

米田　ありがとうございます！またのご利用お待ちしております！今度は出生届で願
いします！

佐原夫妻、冷たい目で振り返り米田を見る。

米田　？

佐原　あんたら、ちゃんと働きなさいね。

夫　（唾を吐く）

